

IVR 日本支部運営委員会議事メモ

日時：2026 年 4 月 5 日（土）15 時 00 分～16 時 20 分

会議形態：Zoom を用いたオンライン会議

出席：足立英彦（支部長）、川瀬貴之、椎名智彦、土井崇弘、長谷川陽子、早川のぞみ、福原明雄（会計）、横濱竜也、戒能通弘（事務局長）

欠席：池田弘乃、近藤圭介、服部寛、米村幸太郎

（オブザーバー）：瀧川裕英（IVR 理事・副会長）

報告・審議事項

1. 第 3 回 IVR Japan 国際会議（IVRJ2026）について

- 足立支部長から、支出についての概算が示された。
- 戒能事務局長から最終的な参加人数などについて報告がなされた。
大会に来られた方々（報告の当日キャンセル 2 名を含める）は、報告者 112 名、同件者 6 名、（ご報告がなかった）運営委員 3 名、アルバイトの方々 7 名、取材クルー 3 名の計 131 名。神戸レクチャーの聴講は 2 名。なお、国別では、日本（48 名）、台湾（18 名）、ポーランド（11 名）など。
支払い種別（Refund 済み含む）では、Regular 96 名、Student 32 名であった。
- 事前に提出いただいた所見、あるいは、会議時に共有いただいた所見に基づいて、各委員から次のような諸課題が示された（なお、以下はごく一部に留まる。各所見については別紙 PDF に）。
- メモ帳あるいはメモができる紙が欲しいという希望が複数あった（横濱委員）。
- Zoom 参加は本人の発表とそれについてのディスカッションのみという現状については再検討する可能性もありうる（米村委員）。
- 報告者でありつつ、他の報告で共著者になっていた人がいた。Proceedings と会議後の原稿募集との関係をより明確にする必要がある。Proceedings の作成方法を変更することが望ましい。（足立支部長）
- EasyChair 上で、キャンセル＋リファンドが比較的容易なため、突発的事態によるやむを得ないキャンセルにも対応できた。ネームタグ、カスタム領収書に用いるロゴを作成してもいいのではないか（戒能）。
- ネームタグ裏面の Certificate of Attendance の他に、参加証明を希望する参加者がいた（今回に関しては、希望の連絡がある場合のみに、参加証明を発行する）。別紙資料として「ネームタグ作成の手引き」もご用意いただいた（早川委員）。
- コピー機について全体に案内があってもよかった。QR コード配布が多かったが、前の時間の QR コードが教室に残されており混乱もあった。教室配置の案内も必要だったのでは。当日キャンセルの混乱については、対応に課題が残った（長谷川委員）。
- 食事に関して、全てに対応できるわけではないこと、返金は出来ないということを明記することも考えられる。大会 2 日目の朝などで、参加者が極端に少ないことがあった

(プログラムを工夫するといった提案もなされた)(福原会員)。

- 上記と関連して、参加者を減らすとなると、査読の負担が増加するのではないか。元々は運営委員の負担を減らすことを目的として、現状の形になっている(土井委員)。
- **Management** のレベルは高い。今後は、**General Session** などで積極的に発言できる人など、**Player** としても期待できる方を運営委員に加えるべき(川瀬委員)。
- 横濱委員から、現時点のアンケートの回答結果が紹介され、大会自体については、概ね高評価であったことや、開催時期として、3月、7月、9月などの人気が高いことが紹介された(横濱委員に集計いただいた別紙資料を参照)。
- オブザーバーの瀧川裕英 **IVR** 理事・副会長より、会議後に次のようなご指摘、ご提言をいただいた。
 - ・今回は、**IVR** 世界大会と同年開催、3月開催、東京圏・京都以外での開催など、新しい試みが多かったが、いずれもうまくいっていた。
 - ・開催時期は夏より快適で、今後の開催時期・開催地の選択肢を広げる意義があった。
 - ・会議全体を通じて雰囲気非常好く、各セッションの報告の質・報告後の議論ともに充実していた。
 - ・海外から参加した教授クラスの参加者は全般に質問の質が高く、セッション構成の際にそのような方を適切に配置するとよいと感じた。
 - ・一部セッションでは日本の大学院生にチェアの負担が重く、より経験のある研究者(海外参加者を含む)に依頼することも検討に値する。
 - ・一部の25分枠報告は実際には30分程度かかっており、報告と質疑を25分で収めるのはかなり難しかった。
 - ・懇親会等も雰囲気がよく、全体として非常によかった。
 - ・他方で、初日の受付やランチでは廃棄がかなり出ており、改善の余地がある。
- 次回の運営委員会を2026年7月26日(日)10:30からハイブリッド方式(慶應義塾大学三田キャンパスとZoom)で開催することになった。